

第6章 イスラエルの蛮行

——国際司法裁判所が「大量殺戮」^{ジェノサイド}と断罪！



イスラエル軍による民族浄化作戦 ガザの惨状
<https://www.rt.com/shows/news/593060-rtnews-february-25-17msk/>
(この URL は動画ニュースになっています。ガザの惨状は後半25分後です。)

私が主宰する研究所の仕事の一つとして『翻訳NEWS』というサイトの運営があります。その「翻訳グループ」の皆さんに素材情報を送るのが私の仕事ですが、先日は、タッカー・カールソンの世界を揺るがすプーチン・インタビューが飛び込んで来たので、その全訳をお願いしました。

しかし他方、タッカー・カールソンのインタビューは、バイデン大統領のロシア戦略の無意味さを暴露すると同時に、無駄なロシア戦線を一刻も早く閉じて「敵の本命」である中国にエネルギーを集中させようとする意図も含んでいたのです。

そのことを教えてくれたのがベン・ノートン (Ben Norton) による次の論考でした。驚きの一語でした。幸いにもこの記事の翻訳が我が『翻訳NEWS』に載りました。

* Putin debunks Tucker Carlson's warmongering anti-China propaganda, mocks his CIA ties
 「プーチンは、タッカー・カールソンの好戦的な反中国喧伝を暴いた」
<http://rmmethodblog.fc2.com/blog-entry-2316.html> (『翻訳NEWS』2024/02/27)

このベン・ノートンの記事は、タッカー・カールソンが正義の味方のように一部のメディアで持てはやされていますがそれを再検討することを促す記事です。研究員のひとり(山上さん≡仮名)から、「川流桃桜」氏の記事として紹介してもらったものです。

しかし、タッカー・カールソンのインタビューにそのような欠点はあるとしても、このプーチン大統領

へのインタビュ어가バイデン政権やEU諸国に与えた衝撃の大きさは、否定しようがありません。そこで世界の眼をこのインタビュ어からそらすために仕掛けられたのが「ナワリヌイ暗殺事件」であり「パレスチナ「ガザ地区」の民族浄化作戦」でなかったのかと私は疑っています。

ナワリヌイの突然死については、NHKを初めとして大手メディアは相変わらず「独裁者プーチンの仕業しわざ」という大合唱です。

しかしガザで大量の人が殺され、一方でジュリアン・アサンジが過酷な刑務所暮らしを強いられているのに、散歩を楽しむことができたナワリヌイの死のみに大声を上げている大手メディアに何とも言えない腹立たしさを禁じ得ません。

唯一救われたのは「川流桃桜」氏の次の記事を見つけたことでした。この論考を読んで事態の真相を皆さんに一刻も早く知ってほしいと思います。

*ナワリヌイ毒殺未遂事件の真相

<http://kawamonomurmur.blog.fc2.com/blog-entry-2540.html>

2

先日、『翻訳NEWS』素材情報の解説のなかで「バイデンが選挙に勝つため中国との戦争にシフトする恐れがある。そのための布石がヌーランド女史の解任だったとも考えられる」と書きました。

そのもうひとつの証拠が、MSNBCとの記者会見での、バイデン大統領の次の失言です。

* 'We shouldn't have gone into Ukraine' - Biden (ウクライナに行くべきではなかった)
<https://www.rt.com/news/594019-biden-ukraine-iraq-israel/> 10 Mar. 2024

「そろそろウクライナから手を引き中国へ軸足を移したい」というバイデン大統領の深層心理が、「ウクライナに行くべきではなかった」という失言につながった可能性があるからです。

本人は「イラクやアフガニスタンに行くべきではなかった」と言ったつもりだったと後で弁明していますが、フロイト心理学は別のことを示唆しているように思います。

もう一つの傍証は、今までイスラエル絶対支持だったバイデン大統領の論調に少し変化が見られることです。バイデン氏は驚いたことに、同じMSNBCとの記者会見で「ネタニヤフ首相はイスラエルを救うのではなく傷つけている」と発言しているのです。

* Netanyahu hurting Israel more than helping - Biden (ネタニヤフ首相はイスラエルを救うのではなく傷つけている)
<https://www.rt.com/news/594013-biden-netanyahu-israel-gaza/>

3

そう思っていたところ次のような衝撃的NEWSが飛び込んで来ましたので、「翻訳グループ」の皆さんに大至急「翻訳」を御願いました。

というのは、米軍の若い現役兵士が「ガザの惨状」に抗議してワシントンDCのイスラエル大使館の前で焼身自殺をはかり、世界に衝撃を与えたからです。この事件はアメリカ批判へと世界の世論を大きく変



「ガザの惨状」に抗議してワシントンDCのイスラエル大使館の前で焼身自殺をはかったブッシュネル氏、現役の空軍兵士

Wikipedia 「Self-immolation of Aaron Bushnell」

えました。

この記事には次のように新しいもの(1)と古いもの(2)とがあるのですが、(1)には焼身自殺の動画が付いているので、衝撃度は(1)が大きいかも知れません。

(1) US airman sets himself on fire outside Israeli Embassy in Washington (米軍の若い現役空軍兵士が、首都ワシントンのイスラエル大使館前で焼身自殺。ガザの惨状に抗議)
<https://www.rtl.com/news/593158-man-self-immolates-embassy/> 25 Feb. 2024

(2) US airman dies after self-immolation Gaza protest (米軍の現役空軍兵士がイスラエル大使館の前で。焼身自殺。アメリカの支援でおこなわれている民族浄化作戦に抗議)
<https://www.rtl.com/news/593225/israel-embassy-self-immolation/> 26 Feb. 2024

これが上記のバイデン発言「ウクライナに行くべきではなかった」につながったのではないかと私は推測しています。

つまり、バイデン大統領の言いたかったのは、「大統領選挙に勝つためにウクライナだけではなくイスラエルからも手を引き、中国へ勢力を転換させるべきだった」、ではなかったのかと思っただけです。

この調子だと、日本もますます中国との戦争

に引き込まれる危険性が強まってきているようです。

4

イスラエル軍による病院爆破など、眼を背けたくなるような光景が連日続いています。しかし、「自由と民主主義」が売り物だったはずの欧米諸国からは、「ロシアの侵略」を口汚く罵ることはあっても、イスラエル批判の声は聞こえてきません。

さすがにバイデン大統領、マクロン大統領、シヨルツ首相らの、この二重基準（ダブルスタンダード）に、EU諸国の民衆は我慢ができなくなってきたようです。それが眼に見えるかたちで噴出したのが、先述の若い現役兵士による「抗議の焼身自殺」ではなかったでしょうか。

ブルドーザー1100台を連ねたEU諸国の農民による抗議活動も、表向きはイスラエル軍やウクライナ軍の戦い方や自国政権の批判はしていませんが、彼らにたいする支援の仕方に我慢できなくなっていることの間接的な抗議行動と言って良いと思います。

しかも、イスラエル軍の蛮行をICJ（国際司法裁判所）に提訴した南ア政府だけでなく、アジアからも声が上がっています。インドネシア政府によるICJ提訴だけでなく、今度はマレーシア首相もイスラエル批判の姿勢を明らかにしました。

そういう意味では、ゼレンスキー大統領やネタニヤフ首相の末路も近いのかも知れません。私には、それを象徴的に示すものが国務次官補ヌーランド女史の辞職のように思えます。

ただ問題なのはバイデンが、選挙に勝つために台湾を「第2のウクライナ」にして、中国との戦いに切



パレスチナ「ガザ地区」における女性と子どもたちへの戦争
<https://www.rt.com/news/594229-israel-gaza-children-killed/>

り替える恐れがあるということです。そのため布石がスーランド女史の解任だったとも考えられるからです。そうなる日本が「第2のドイツ」となり、荒廃を免れないでしょう。

5

イスラエルのガザ地区における蛮行はとどまるところを知らません。ところが欧米の知識人やEU幹部はウクライナにおけるロシア進攻時と違って、まともな抗議の声をあげません。岸田政権も同じです。

そこで、少しでもこのような流れを食い止めるために、次の記事を「翻訳グループ」の皆さんに緊急に翻訳して欲しいと思うようになりました。

* The hunger killing Gaza's children has a clear cause that few are willing to name out loud (ガザの子どもたちを殺している飢餓には、明確な原因がある。だがそれを声に出して言うひとがほとんどいない)
<https://www.rt.com/news/593994-israel-gaza-starvation-massacre/> 10 Mar. 2024

このエバ・バートレットの記事は、食料などの援助物資を求めて列をなしている飢餓者の群れを爆撃・銃撃しているようすも報道していますから、イスラエル軍の残虐さ・非人道ぶりを告発するとい



う意味で、真つ先に挑戦してほしいと思いました。

また、「家族の命が惜しくないのか」という脅迫にもめげず、イスラエルの蛮行をICJ（国際司法裁判所）に告訴した、南ア政府外務大臣ナレディ・パンドール女史（Naledi Pandor）の奮闘ぶりも、ぜひ世界中のひとたちに知らせてほしいと考えました。

* Israeli spies threatening my family - South African FM（イスラエル情報機関が私の家族を脅迫している」と語る南ア外務大臣）
<https://www.rtl.com/africa/592176-south-african-minister-israeli-spies-threat-claims/>

この記事で彼女が「イスラエルの情報機関」と言っているのは、かの有名な「モサド」と呼ばれるスパイ暗殺部隊ではないでしょうか。このような女性が外務大臣になり、ネタニヤフ首相を告訴した勇気を、日本政府も見習ってほしいものです。

6

次のビデオ記事は9分弱です。英語がわからなくても、画面下の解説を読み、動画のなかのグラフを見ただけでも、伝えたいことは分かると思います。

* The US "Aid" Trojan Horse in Gaza（アメリカのガザ援助物資投下は、イスラエル援助を続けるための「イチジクの葉」「トロイの木馬」）

<https://ihya360.wordpress.com/2024/03/14/the-us-aid-trojan-horse-in-gaza/> March 14, 2024

ガザ地区でおこなわれている子どもたちの大量殺戮



このビデオはジャーナリストであるヴァネッサ・ビーリー女史へのインタビューでしたが、このなかで彼女は衝撃的なグラフを示しています。

それは「二〇一九年から二〇二二年までにガザ地区で殺された子どもの数が、その地区を除いた、世界の子どものたちの死者数総計よりも多い」という事実でした。

事実、イスラエル軍がイスラム原理主義勢力「ハマス」を殺しているのではなく、死者の大半は女性と子どもたちでした。

この一事だけで、ネタニヤフ首相の真の狙いが、ガザからパレスチナ人を一掃するために、標的を一般人に定めて、彼らを恐怖に追い込むことだということが分かります。そうすればパレスチナ人は「自主的に」ガザの地から逃げ出すだろうと考えているわけです。かくして「民族浄化」は完成です。

調べてみると、ビーリー女史のグラフは、国連のUNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）の責任者フィリップ・ラザーニ氏の報告を基にしていることが分かりました。詳細は次の記事を御覧ください。

* More kids killed in Gaza than in four years of global conflicts - UN（4年間で、ガザで殺されている子どもたちは、世界中の紛争で殺された子どもたちの総計より多い）国連



アメリカのガザ援助は「トロイの木馬」（食糧と同時に武器を投下）

<https://www.rt.com/news/594229-israel-gaza-children-killed/>

もうひとつビーリー女史は重大な事実を明らかにしていました。それは、飢餓に苦しむガザ住民に、アメリカが空から援助物資を投下している真の狙いは、「イスラエル軍に武器を送ること」と「ガザ沖に眠っている豊かな天然ガスを盗掘すること」にあったことを暴露していることでした。

このビデオの冒頭に掲げてある上の漫画は、そのことをみごとに描いていて、感心させられました。

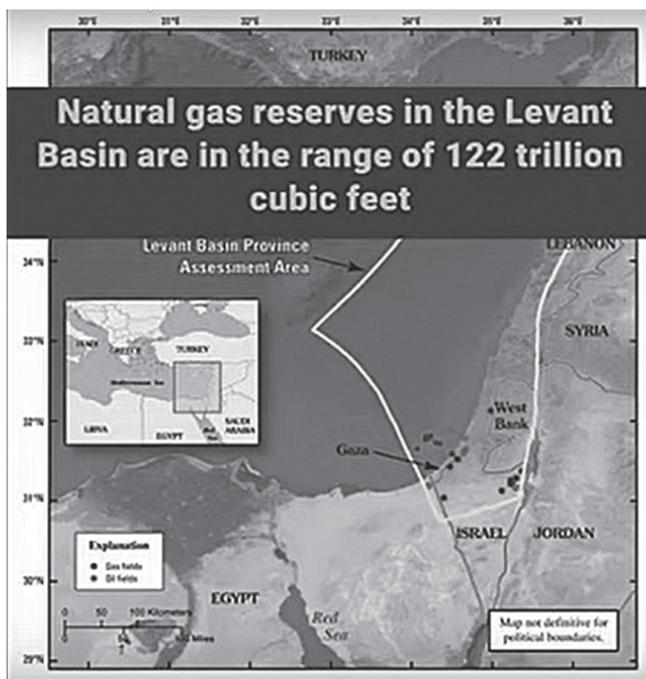
7

また記事に付けられたビデオの5分過ぎのところには、ガザ沖に眠っている豊かな天然ガスをアメリカ（&イスラエル）が盗掘しようとしている次頁の地図が載せられていました。

これを見ると、アメリカの「援助物資の投下」は、「援助」どころか「どろぼう」「海賊行為」であることが歴然としてきます。「神に選ばれた民」と「神に選ばれた国」の実態は、このようにおぞましいものです。

わたしは既に「神に選ばれた民」と神に選ばれた国に未来はあるか」という連載を書いてきましたが、このような彼らに未来があるとすれば、彼らが信じる「神」とは一体どのような存在なのでしょうか。

彼らの「神」は、このような非人道的行為を許し、平気で認める「神」なのでしょうか。だとすれば、彼らの「神」はなんと恐ろしい「神」なのでしょうか。



地中海東岸レバント湾の天然ガス貯蔵量は122兆立方フィートもある。ガザ沖は天然ガスの宝庫、それを盗もうとするアメリカとイスラエル

〈本章のキーワード〉

- ICJ (International Court of Justice) 国際司法裁判所
- UNRWA (UN Relief and Works Agency for Palestine Refugees) 国連パレスチナ難民救済事業機関
- 「民族浄化」という作戦
- 「ジェノサイド (genocide 大量殺戮)」という戦争犯罪
- タッカー・カールソン (Tucker Carlson) ニュース
- ナレディ・パンドール (Naledi Pandor) 南ア政府の外務大臣
- バネッサ・ビーリー (Vanessa Beeley) イギリスの活動家・ジャーナリスト
- フィリップ・ラザーニ (Philippe Lazzarini) UNRWAパレスチナ責任者